

社会科歴史的分野 学習指導案

指導教諭

授業者

1. 日時 令和3年6月9日(水) 第5時限 13時30分～14時20分

2. 場所 第3学年4組教室

3. 学年・組 第3学年4組

4. 単元名 第6章 二度の世界大戦と日本

【教科書(東京書籍)P.214～215】

5. 単元目標 太平洋戦争が発生したきっかけを経済の社会的混乱である「世界恐慌」、「昭和初期の我が国の世界恐慌に対する政治」、「日中侵略と戦時体制」の3つの視点から、軍部の台頭、戦争までの経過を理解する。

6. 単元について

①教材観

本単元は、学習指導要領の内容の(5)「近現代の日本と世界」の中項目(カ)第二次世界大戦と人類への惨禍の部分にあたる。(5)の大項目では、19世紀後半の開国、明治維新以降の我が国の近現代の歴史について、世界の動きとのかかわりの中で学習する。世界恐慌後各国が様々な対応をしていくなかで、国際社会に複雑な対立関係が起こってくる。日本においては、経済的混乱と社会不安の広がりを背景に軍部が台頭し、満州事変、日中戦争、太平洋戦争へとという戦争過程をたどっていく。この激動の時代のできごとを題材に、日本のとった行動に対して、お互いに意見を出し合い、歴史に対する多面的・多角的な見方を育てていきたい。また、世界的視野から事象の因果関係を把握させることにより歴史の大きな流れを理解させるためにプロジェクターを使用して、写真やイラストを前のスライドで確認することで、因果関係や大きな流れのイメージを持ちやすくする。

②生徒観

本学級は男子21名、女子19名の40人学級である。授業の導入で投影する視聴覚教材や授業者の講話に関心を示す様子は見られるが、自信を持って発言することが苦手であったり、授業の後半になるにつれ集中力が途切れてしまう生徒が何人かいる。そこで、メリハリのある授業を展開し、生徒とともに作り上げていく意識を持つことが必要である。また、学習面で課題がある生徒に対しては、個別の声かけの中で授業者が補助的な発問を投げかけるなどして、自分の考えを表現することを促し、少しでも自己肯定感を感じられるよう指導している。生徒の発言や発表を肯定的に捉え、反応することで生徒との信頼関係を深めていき、生徒の関心を深め、学びに対する姿勢を高めていくことが目標である。

③指導観

本単元では、世界恐慌に対する各国の対応についてグループ活動やペアワークを行い、自分の意見や考えを他者に伝える力を身に付けさせるよう促す。また、他者の意見を尊重したうえで反論するといった討論が行えるように声をかける。グループワークをする上で生徒が理解を深めやすいように、活動が止まっている班には積極的に声をかけ、理解の手助けを行う。ニューディール政策とブロック経済、民主主義と全体主義などを比較する際、プロジェクターを使用し、ただ説明するだけでなく、アニメーションや写真を使い視覚的に印象に残るようにする。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界恐慌時に日本が行った対策により、日本国内で軍部が台頭することとなり、満州事変を引き起し、日中戦争へとつながることを理解する。またドイツのファシズムにより第二次世界大戦がはじまったことを理解する。また、当時の国民生活の様子などをグラフや地図、写真から読み取ることができる。	日本が太平洋戦争を行った原因を「世界恐慌」、「昭和初期の我が国の世界恐慌に対する政治」、「日中侵略と戦時体制」といった3つの視点を基に色々な視点で考え、その結果や過程を表現している。	第一次世界大戦後の好景気の流れを踏まえて、世界恐慌に各国がどのような対応をしたのかに関心を持ち、日本が太平洋戦争を行った原因を振り返り、本時の内容以外を意識しながら追求しようとしている。

8. 単元計画(全4時間)

第6章 二度の世界大戦と日本「2節 世界恐慌と日本の中国侵略」

第1次	世界恐慌とブロック経済 1時間
第2次(本時)	欧米の情勢とファシズム 1時間
第3次	昭和恐慌と政党内閣の危機 1時間
第4次	満州事変と軍部の台頭 1時間
第5次	日中戦争と戦時体制 1時間

9. 本時の展開

①本時の目標

- ・ドイツがブロック経済を行えなかったのは植民地がなかったこと、ニューディール政策を行えなかったのは借金を背負っていたからだとして理解し、それが第一次世界大戦の結果に関係していることに気づく。
- ・世界恐慌に対するドイツ、イタリアの対応から民主主義とファシズムの違いを理解する。

②本時の評価規準

- ・ファシズムに関心を示し、学習内容に意欲的に取り組もうとしている。【意欲・関心・態度】
- ・ファシズムについての国別背景を理解している。【知識・理解】
- ・当時のイタリア、ドイツの経済状況をペアワークを通じて表現している。【思考・表現】

③準備物・・・教科書「新しい歴史」(東京書籍)、資料集「歴史の資料」、ノート、ファイル

④学習過程

展開	学習活動	指導上の留意点・【評価の観点】
導入 15分	<p>1 導入 P, 215 の「1兆マルク紙幣」と札束で遊ぶ子どもの写真をプロジェクターで前に映し、当時のお金の価値の暴落について触れる。</p> <p>・ペアワーク 子どもたちはなぜ大金で遊んでいるのか。</p> <p>【生徒の回答例】 お金に価値がなかった、お金持ちの過程だった、など。</p> <p>2 前時の振り返り</p> <p>前時 「世界恐慌とブロック経済」 世界恐慌に対する各国の対応を振り返り、国際協調の体制が大きく揺らいだことを確認する。また、本時のイタリア、ドイツの対応へとつなげていく。</p> <p>3 前時から本時へのつながり 第一次世界大戦の敗戦国で支払いに苦しむドイツと、戦勝国ながらも戦争の被害が大きく、経済が混乱していたイタリアについてふれる。 (プリント配付)</p> <p>4 ドイツとイタリアがブロック経済をすることができなかつたのはなぜか。</p>	<p>1 実際にお金を粗末に扱わないように注意して説明する。</p> <p>【思考・表現】</p> <p>2 前時の学習内容を振り返り、イタリア、ドイツの対応や背景を確認することを留意する。</p> <p>3 前時を通して世界恐慌に対する各国の対応の学習をしてきたので、復習を兼ねる。</p> <p>4 本時の内容に関わる点なので、ブロック経済をすることが出来なかつた点を丁寧に説明する。</p>
展開① 35分	<p>ねらい: 民主主義を否定したドイツとイタリアについて考える。</p> <p>5 ファシズムの説明 ファシズムは、民主主義を否定している考え方だと説明する。</p>	<p>5 なぜファシズムが国民に支持されるようになったのかに留意する。</p>

<p>6 イタリアの対応 経済の混乱から、ファシズムの流れが広がっていったイタリアで権力を強めたムッソリーニの説明。</p> <p>・ファシスト党、政党の禁止、言論や集会の自由を制限。</p> <p>7 ドイツの対応 世界恐慌の影響を最も受けたドイツがファシズムという運動を起こし、ヒトラー政権が誕生するまでの流れを確認。</p> <p>・初めて学習する考え方 (全体主義の確認)</p> <p>8 ヒトラーによる一党独立体制 ユダヤ人の迫害、共産主義者への攻撃を強める。</p> <p>P, 215 の「ナチス党员の話」からドイツ国民の思考力の低下と不満を考える。→ナチスの発展</p> <p>・ワイマール憲法の停止→独裁の確立</p> <p>9 スペインのファシズム 内戦の結果、ドイツやイタリアの影響を強く受けたファシズムがおこる。</p>	<p>7 ユダヤ人の人権が著しく侵害されたことについて具体的に説明する。 ドイツは、全体主義の前は民主主義の体制だったことを説明する。</p> <p>8 ワイマール憲法が民主主義の憲法であったことに留意する。</p> <p>9 スペインの内戦にイタリアとドイツが介入したことに触れる。 不正解の意見はなく、自由に自分の意見を持つことを注意して呼びかける。</p>
<p>まとめ: ファシズムのメリット、デメリットを書きなさい。</p>	
<p>・ペアワーク 個人でメリット、デメリットを書く。 ペアを作り意見を伝え合う。</p> <p>【生徒の回答例】 メリット・・・経済が回復する デメリット・・・国民の自由がなくなる</p>	<p>人と意見が違っても、意見を聞き、尊重する姿勢を持つことを注意させる。</p> <p>【意欲・関心・態度】 【知識・理解】</p>

ご高評価欄